

第133回運営委員会概要 11月21日(木) 18:30~21:20

- ◆会場：柏崎原子力広報センター 2F研修室
- ◆出席委員：新野・佐藤・三宮・高橋(武)・武本(和)・徳永・・・6名
- ◆記録誌編集委員：川口・・・1名(敬称略、五十音順)
(欠席：石坂・竹内・前田委員)
- ◆オブザーバー：規制庁／内藤所長・山崎原子力防災専門官・北村原子力防災専門官
エネ庁／橋場所長
柏崎市／野澤主任
東京電力／長野副所長・西田リスクコミュニケーター・杉山課長・山本主任
- ◆事務局：広報センター／須田業務執行理事・石黒主事

次回定例会内容について(12月、1月、2月(情報共有会議))

◆12月定例会について

〈議長〉前回の運営委員会では、県の原子力防災訓練について、各自治体の反省や課題についての報告をお願いしてはどうかという提案が出されている。また、1月は1年の初めでもあり、2月の情報共有会議につながっていくこともふまえ、12月定例会ではどんなことを協議していくか意見をお願いしたい。

12月にエネルギー計画のとりまとめが出るといわれているようだが、どのような状況か。

〈エネ庁〉年内を目標に取りまとめが進められている。ご説明できるとすれば年明け以降になるかと思う。

〈議長〉その内容も重要であり、今後の議題に加えていく必要がある。それをふまえて考えてもらいたい。

防災については、かねてより皆さんの関心のあるところだが、今のところ防災について市も県も新たな動きはない。たとえば住民が今思うことを述べ、それを行政の方たちには、今後の計画に役立てていただくことはできると思う。

3月に行われた原子力防災訓練の総括や課題など、まとめたものはあるのか。

〈柏崎市〉防災訓練が終わったあと、県に市、村の他、関係機関が集まり、意見交換などを行っている。これは、県の主催で市も参加機関として意見を述べている。この場で県がとりまとめたものを出していただくことは可能であると思われる。もちろん、市の参加関係者の意見などは集約してあり、アンケート結果もまとめて県に提出している。

〈委員〉まとめたものについて、その問題点への対応が進んでいないのならば、議論にはならないのではないか。

〈議長〉福島事故の検証についての議論は難しい。福島事故について私たちが知っている情報から、もっとどんなことをすればいいのか、ど

んなことをしてもらったら私たちに必要な防災につながるのか、このような状態になった時にこんな防災がほしいということ、県や市、村に伝えること。また、防災計画の内容ができあがる前に住民の意見を伝えていくことは大切なのではないか。

〈委員〉例えば、自主防災会をつくれということで各地域に自主防災会はできた。しかし、いざ現場にいったら、まだまだ住民の防災意識は低い。

こういうふうに逃げるときにこのような資機材がほしいとか、荒浜から抜ける避難道路をつくってほしいとか、なんでもいいから住民の率直な意見をいうことで、一人ひとりが関心を持ち、積極的に防災に関わる意識改革につながってほしい。

〈委員〉3月の防災訓練に参加したのは、市民のごく一部の人たち。市が集約した意見や参加した人たちの感想などを聞いてみたい。

〈議長〉市、村がまとめたものを報告していただいて、さらに県の報告もお聞きして、私たち住民の意見も県市村に聞いていただくことにしたいがどうか。

(委員賛成)

〈議長〉前回の運営委員会で、ベントについて東京電力から改めて説明していただくことも決まっているので、12月にお願いしたい。

〈東京電力〉再度、ベントの位置づけなどを含め、概要をご説明したい。

(委員賛成)

〈委員〉新規制基準に対する適合審査が始まった。どのような内容について、どのような資料を請求され、どのような報告をしたとか、細かな数字ではなく大まかな考え方のようなものを、前回からの動きの中で東京電力から報告してほしい。

(委員賛成)

〈議長〉会議は東京で行われているが、どういうことが行われているかを私たちが知る機会は少ない。私たちは専門家ではないので、細かな説明は求めている。私たちにもわかる内容を毎月の定例会の中で報告していただきたい。

(東京電力了解)

10周年記録誌について

〈編集委員〉表紙を含めて計40ページの予定。

「地域の会10年の記録」という表題にし、表紙は、柏崎刈羽発電所の視察の写真を入れたい。1pには会の目的、目次。2

pには会長挨拶。続いて、市長（代表理事）、村長、知事、規制庁、エネ庁、東京電力の方たちオブザーバーの言葉。

次に、10周年の記念講演の写真やこれまでの主な活動の写真。次に、地域の会の活動経緯、委員からのひと言、設立趣旨、今まで出した提言の目的と提出先。第1期から第5期の方たちの名簿と推薦団体、最後に編集後記。

表紙と最初の写真、主な視察先の写真はカラー写真を入れて、後は2色にしたいと考えている。

ご意見などあれば伺いたい。

〈委員〉構成やレイアウトはよいのではないか。

（委員賛成）

〈委員〉たとえば、市長挨拶という言葉よりは、10周年によせて、というような表題をつけてはどうか。

（委員賛成）

〈編集委員〉ご意見をふまえたい。原稿を12月10日頃までにはいただいて、12月18日の運営委員会にはある程度、形になったものを提出できると考えている。

各委員には、案内を出して、1000字程度の文を、次回定例会までに寄せていただこうと考えている。

（委員了解）

次年度事業について

〈議長〉毎年、年明けに委員の皆さんにアンケートを取ったりしてご意見を聞いているが、来年度の計画について大まかな希望、意思表示を話し合っておきたい。

〈事務局〉予算関係については、実はもう終わっている。今年度も予算が足りるかどうかというところ。来年度は遠方への視察を減らして柏崎刈羽発電所の視察を増やすなど工夫をしていただければと考えている。

〈議長〉視察の意義というのは、実は視察だけが目的ではなく、よりよい議論をしていくためには、委員同士がより話し合う時間を作ること、県からもご理解をいただき、一度なくなった視察が復活したという経緯がある。お金の使い方については、予算がなければ自前でもいいという皆さんの合意をいただいて、視察を継続してきた。

事務局の予算という意向で視察を減らすというのは、私たちのよりよい議論のためということも考えると少し難しいのではないか

と思う。

〈事務局〉事務局として活動を支えながら、皆さんの思いや視察の重要性はよくわかっている。数年前に、会議の回数を減らすという話し合いも行われていて、それはどうなったのかということも言われる。

〈議長〉議事録にも残っているが、中越沖地震から2年ほど経った頃、会議も落ち着いてきたことから、年12回の会議を10回にしようという話し合いがあった。しかしその後、福島事故が起きたことで4月に、活動について減らしていこうという話し合いはしたけれど、当面それはできないということを委員で合意した。

〈事務局〉予算の話はまたのちほどお知らせしたいと思う。次年度の事業については、委員の皆さんにアンケート用紙を配布して、お聞きしたいと思う。

(委員了解)

視点63号内容について(第123、124回定例会について)

- ・第124回は福島視察報告でまとめ、その他質疑は次回に反映させる。事務局案を委員で確認、細かな改善を行い終了。
- ・「発電所を巡る主な動き」は、今後、柏崎刈羽原子力発電所に関する事項に絞って掲載する。

【決定事項】

〈12月定例会タイムスケジュール〉(案)

18:30～19:30	前回からの動き (東京電力・規制庁・エネ庁・県市村)
19:30～19:50	ベントについての概要説明(東京電力)
19:50～20:15	質疑応答
20:20～20:50	原子力防災訓練のまとめ報告(市・村・県)
20:50～21:00	質疑応答(確認など)、その他

次回以降日程について

第126回定例会	12月 4日(水)	18:30～21:00
第134回運営委員会	12月18日(水)	18:30～21:00
第127回定例会	1月 8日(水)	18:30～21:00 (※第二水曜日です)
第128回定例会(情報共有会議)	2月 5日(水)	15:00～18:00 産業文化会館3階大ホール